

月	単 元 名 (教材名) (配当時数)	学 習 活 動 ・ 内 容	評価の主な観点			評 価 の 観 点 規 準	評価のための判断材料
			主体的に学習に取り組む態度	思考・判断・表現	知識・技能		
4月	第1章 数と式 (20時間) (1) 多項式	(1) ①多項式 ②多項式の加法と減法 ③多項式の乗法 ④展開の公式				・ 2次, 3次の乗法硬式, および因数分解の公式を適切に使うことができる。 ・ 整式に関する用語を正しく使うことができる。 ・ 分数式の計算を正しくできる。	・ 授業中の態度、反応 ・ ノート、問題集 ・ 定期考査
5月	(2) 因数分解 (3) 多項式の割り算 (4) 分数式	(2) ①因数分解 (3) ①多項式の割り算 (4) ①分数式の計算 ②式の計算	◎	○	○		
6月	第1章 数と式 (5) 実数	(5) ①実数 ②数直線 ③絶対値 ④平方根 ⑤根号を含む式の計算 ⑥式の値 ⑦2重根号				・ 数を実数まで拡張する意義を理解し, 無理数の四則計算を行うことができる。 ・ 数を複素数まで拡張する意義を理解し, 複素数の四則計算を行うことができる。 ・ 2次方程式の解を分類することができる。	・ 授業中の態度、反応 ・ ノート、問題集 ・ 定期考査
7月	第2章 複素数と方程式 (20時間) (1) 複素数 (2) 2次方程式の解と判別式	(1) ①複素数の定義 ②複素数の計算 ③負の数の平方根 (2) ①解の公式 ②判別式	○	○	◎		

9月	(3) 解と係数の関係 (4) 因数定理 (5) 高次方程式 (6) いろいろな方程式	3) ①解と係数の関係 ②2次式の因数分解 ③因数分解と係数の範囲 ④2数を解とする2次方程式 ⑤2次方程式の実数解の符号 (4) ①剰余の定理 ②因数定理 (5) ①高次方程式の解法 ②高次方程式の係数と解 ③3次方程式の解と係数の関係 (6) ①連立3元1次方程式 ②1次と2次の連立方程式 ③分数式を含む方程式第	○	◎	○	・解と係数の関係を用いて、種々の問題を解くことができる。 ・因数定理を用いて高次方程式を解くことができる。	・授業中の態度、反応 ・ノート、問題集 ・定期考査
10月	第3章 2次関数とグラフ (20時間) (1) 2次関数のグラフ (2) 関数のグラフの移動 (3) 2次関数の最大値、最小値	(1) ①関数 ②座標平面上 ③ $y=ax^2$ のグラフ ④ $y=ax^2+q$ のグラフ ⑤ $y=a(x-p)^2$ のグラフ ⑥ $y=a(x-p)^2+q$ のグラフ ⑦ $y=ax^2+bx+c$ のグラフ (2) ①点の移動 ②グラフの平行移動 ③グラフの対称移動 (3) ①2次関数の最大値、最小値 ②2次関数の最大値、最小値の応用	○	◎	○	・関数 $y=ax^2+q$ 、 $y=a(x-p)^2$ 、 $y=a(x-p)^2+q$ のグラフを書くことができる。 ・関数のグラフの移動を理解し、求めることができる。 ・2次関数の最大値、最小値を求めることができる。 ・問題場面の数量関係を、表、グラフ、式に表して問題を解決しようとする。	・授業中の態度、反応 ・ノート、問題集
11月 12月	(4) 2次関数の決定 (5) 2次関数のグラフと方程式 (6) 2次不等式 (7) 2次不等式の応用	(4) ①頂点や軸、通る点からの決定 (5) ①2次関数のグラフと方程式 ②2次関数のグラフと直線の共有点 ③2つの放物線の共有点 (6) ①1次不等式と1次関数のグラフ ②2次不等式 ③グラフがx軸に接する場合 ④グラフがx軸と共有点をもたない場合 ⑤2次不等式のまとめ (7) ①2次不等式の利用 ②2次の連立不等式 ③2次不等式の文章題 ④2次方程式の解の範囲	◎	○	○	・グラフを利用し、方程式、不等式を解くことができる。	・授業中の態度、反応 ・ノート、問題集 ・定期考査
1月 2月	第4章 図形と式 (10時間) (1) 数直線上の内分点、外分点の座標 (2) 座標平面上の点 (3) 直線の方程式	(1) ① (2) ①座標平面上の2点間の距離 ②三角形の重心の座標 (3) ①直線の方程式 ②2直線の関係	○	○	◎	・既習事項を整理し、様々な問題に取り組むことができる。 ・自らの課題を発見し、課題解決に取り組むことができる。	・授業中の態度、反応 ・ノート、問題集
3月	復習	これまでの学習事項を整理し、代数・幾何ともに演習問題を行う。	◎	○	○		・授業中の態度、反応 ・ノート、問題集 ・定期考査

